

# 福 祉

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

福祉教育における組織的な授業改善の推進～「指導と評価の一体化」視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現～

### (2) 研究のねらい

生徒一人ひとりの考察する力を育成するために、「他者との協議」及び「ICTの活用」を効果的に授業に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実践を図った。

## 2 実践事例

### (1) 単元指導計画

ア 科目名：こころとからだの理解

イ 単元名：睡眠・休養に関するこころとからだのしくみ

ウ 単元の目標：

- (ア) 睡眠・休養の生理的な意味やそのしくみ、関連する器官などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (イ) 現代社会における各年代の睡眠・休養に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
- (ウ) 睡眠・休養と生活の関連性などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

### エ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
睡眠・休養の生理的な意味やそのしくみ、関連する器官などについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	現代社会における各年代の睡眠・休養に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	睡眠・休養と生活の関連性などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

### オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	「学習内容」及び学習活動	知	思	態	評価のポイント ・指導上のポイント
1	本時	「睡眠・休養の生理的意味」事例を踏まえ、「介護老人福祉施設」利用者の睡眠における課題とその背景及び解決に向けた支援について考察する。		○	●	【評価のポイント】 (思) 事例における利用者の睡眠に関する現状と課題について考察し、対応方法について考えをまとめている。 【指導上のポイント】 (態) 事例における利用者の睡眠に関する現状と課題についておおむね協働的に学び、わかりやすい発表に向けて取り組もうとしている。
2	2	「概日リズム、睡眠のしくみについて」睡眠の特徴について学び、個々の状況に応じた睡眠の方法について考察する。		●		【指導上のポイント】 (思) 概日リズム及び睡眠のしくみについて、科学的根拠に基づいて考察している。

3	3 ・ 4	「睡眠障害について」 睡眠障害の原因と影響について理解し、 生活場面における課題とその支援につい て学ぶ。	●	○	【指導上のポイント】 (知) 睡眠障害の原因と影響に ついて理解している。 【評価のポイント】 (態) 睡眠障害のある方への支 援について主体的に学ぼうと している。
4	5 ・ 6	「心身機能の変化が睡眠に及ぼす影響」 からだの変化に伴う睡眠の変化とその影 響について学ぶ。	○		(知) 睡眠・休養がもたらすこ ころとからだへの影響を理解 している。

カ 授業実践例 (1時間目/6時間)

学習活動(※指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「健康」をキーワードに睡眠・休養に関するところとからだについて関心を高める。</li> <li>・アンケートに回答する(図1)。 質問①あなたが健康であるために1番大切なことは何ですか。 質問②あなたが1日の中で大切にしている時間は何ですか。 質問③あなたが1日の中で最も時間をかけていることは何ですか。</li> <li>○質問に対する回答の傾向を踏まえ、単元「睡眠・休養に関するところとからだのしくみ」における、本時の学習のねらいを確認する。</li> <li>※アンケートを効率よく共有できるよう、Google フォームを活用する。</li> </ul> <p>2. 展開1(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人での考察 スライドによる事例を提示し、利用者(やすこさん)の不眠の背景について考察した内容を記入する(図2)。</li> <li>※考察が進まない生徒には、実習等で経験したことを思い出し、不眠の緩和・解消に向けた対応について考えるよう助言する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="209 1256 663 1563"> </div> <div data-bbox="699 1256 1145 1563"> </div> </div> <p>図1 アンケートに回答する様子      図2 ワークシートに記入する様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループでの考察</li> <li>・介護者としてできる支援をグループ(4名×6班)で意見交換する(図3)。</li> <li>・発表に向けた役割分担 (司会/記録・Google Jamboard/計時/発表)を決める。</li> </ul>	<p>(態) アンケートへの取組</p> <p>(思) ワークシート(図10) 発表 Google Jamboardへ のコメント</p>

※グループワークでまとめた考えを共有できるように、Google Jamboardを活用する。



図3 グループで考察する様子

3 展開2 (10分)

○発表

グループの考え(介護者としてできる支援)を発表する(図4)。



図4 発表の様子

(態)  
発表への取組

4 まとめ(10分)

○個人での考察

他のグループの考えを参考に、自分の考えを深めワークシートにまとめる。

(思)  
ワークシート

研究実施校：神奈川県立津久井高等学校(全日制)  
実施日：令和5年10月26日(木)  
授業担当者：上村 圭 教諭

(2)「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

ア 評価規準の作成

本時の学習のねらいを基に、評価規準(表)のとおり作成した。また、研究のねらいから授業実践例のとおり、「個」→「集団」→「個」を学習の流れとし、生徒が安心して学習に取り組めるよう学習の流れをイメージしやすいことと、学習過程での生徒の変容が見取りやすいことに配慮してワークシート(図10)を作成した。

表 本時の評価規準

(思)：【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」状況(B) 学習活動における具体的な評価規準	事例における利用者の睡眠に関する現状と課題を考察し、対応方法について考えをまとめている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	事例における利用者の睡眠に関する現状と課題を具体的に考察し、職業人としての倫理観に基づいた対応方法について考えをまとめている。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て	事例における利用者の睡眠に関する現状と課題について、一般的な不眠を例に挙げ、考えることができるように支援する。

(態)：【主体的に取り組む態度】

「おおむね満足できる」状況(B) 学習活動における具体的な評価規準	事例における利用者の睡眠に関する現状と課題についておおむね協働的に学び、わかりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	事例における利用者の睡眠に関する現状と課題について主体的かつ協働的に学び、わかりやすい発表に向けて粘り強く取り組んでいる。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て	事例に興味・関心を持ち、グループ活動における自身の役割に気づくように支援する。

イ 授業実践時における具体的な取組

(ア) 導入

主体的に学習に取り組むため、導入は自分事として関心を持ちやすい「健康」をキーワードとして学習をスタートした。「健康」に対するイメージや視野を広げるため、質問による意識調査を行った。質問内容は、学習内容を自分事として捉えられるよう、普段の生活を振り返ることにより回答することができる内容とし、それぞれが持つ意識を共有した。アンケートはGoogle Formsを活用した。アンケートの結果(図5)は次とおりであった。生徒の意識や関心事の共有と、アンケート結果をリードにして本時の学習のねらいを伝えることに役立てることができた。

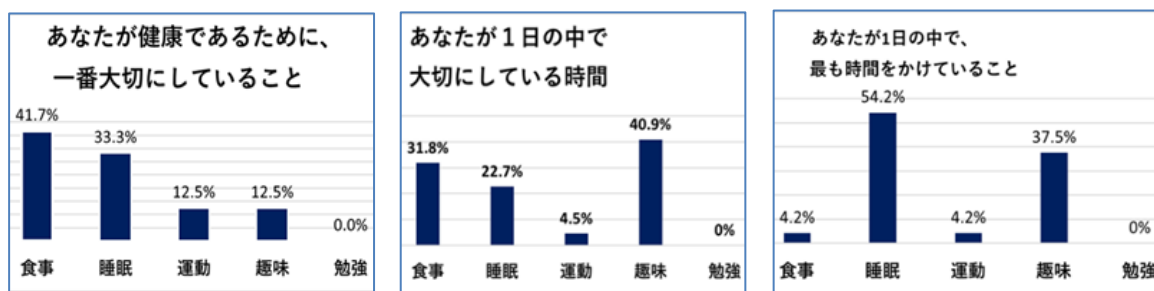


図5 アンケート集計結果

(イ) 個人の考察からグループワーク(展開1)

個人の考察が学びを進めるベースとなることから、実習等で経験したことを思い出し、不眠の緩和・解消に向けた対応について考えるよう助言した。

グループワークでは、検討した内容を効率よく発表につなげられるよう、Google Jamboardを活用した。

自分の考えがあまり膨らまず考察に努力を要する生徒も、グループワークにより様々な視点からの意見を得ることができ、考察を深めている様子を確認することができた。また、もともと個人の考察が十分であった生徒も、グループワークを通してさらに気づきを深めていた(図6)。

Q. やすこさんが「眠れない」のはなぜだろう？		生徒Aさん
私の考え (不眠の背景として考えられること)	対応 (やすこさんに対して私ができること)	
・不安なことがあった	・本人から話を聞く →話を聞いて安心してもらう	
・眠くなかった	・居寝の環境がわからない 居に起きしらいらゆるうはる物から	
・眠るための環境がた (室温、明るさ)	・本人から聞く 深層の環境を把握する	
グループの考え (不眠の背景として考えられること)	対応 (やすこさんに対して私たちができること)	
① 居に寝ているのはい	① シクリエーションで体操と行い 相関の睡眠の質を上げる	
② 居の環境	② 環境の改善を促し 確認として ニースにあおる環境整備をする	
③ 不安なことばあったかもしれない	③ 不安に思っていることを聞き 何で又の気持ちを楽にしてくれる	

図6 グループワーク後の考え・考察の変化



一方、授業担当者から見ると入所者の訴えの解決に向けて優れた感性で表記している生徒の考察がグループワーク時に班の意見として反映されない場合がある。その様な場合は、指導者から生徒へのフィードバックが必要となることが課題としてわかった(図7)。

Q. やすこさんが「眠れない」のはなぜだろう？	
私の考え (不眠の背景として考えられること)	対応 (やすこさんに対して私ができること)
・ ストレスがあった	・ 話を聞き、次の日にできることがあれば次の日に一緒に行う
・ 眠ることへの恐怖	・ 音楽を流したり、ライトと一緒にいっあげる
・ 体のどこかが痛かった。	・ どこが痛いのが聞き、クッションを入れたりマッサージしたりして体を休める
グループの考え (不眠の背景として考えられること)	対応 (やすこさんに対して私たちができること)
① 不安があって眠れない	① 話を聞いて解決方法を一緒に探す
② 不満があった	② 話をして不安を取り除く
③ ストレスがあった	③ 話を聞き、次の日にできることがあれば次の日に一緒に行う

図7 グループの考えに反映されなかった考察

(ウ) グループ発表から個人の考察(展開2からまとめ)

グループ発表を行い、視点や考えを共有した。Google Jamboardでの発表例を次に示す(図8)。

不眠の背景として考えられること	Aさんに対して、私たちが4班できることはなんだろう
① 日中活動していないから眠れないかもしれない	体を動かすようなレクリエーションを行う
② 寝心地が悪いのかもしれない	寝心地が悪いかやすこさんに聞いてみて変更をするなど検討する
③ 昼に寝すぎたのかもしれない	話をたくさんする

図8 発表時のGoogle Jamboard

グループ発表後の生徒の記述内容を見ると、発表班の内容に対する疑問・危惧を鋭い視点で指摘していた。個人の考察をグループで共有し、グループ発表により他のグループの様々な視点からの意見を得ることで、個人の考えがより深まったことによるものと考えられる(図9)。

○他のグループの考えを参考に自分の考えを深めよう。
最も印象に残ったもの 1・2・③・4・5・6 班の ①・②・③ (いずれかに○をつける)
ベッドメンテナンスを行うことで寝心地が良くなり眠ることが可能だと思った。 可能な限りベッドを変えると書いてあるが今まで1年間そのベッドで寝ていたのならそのベッドに慣れていると思ったので変えてしまった ら逆に寝れないと思った。

図9 発表後の考え・考察の深まり

(エ) ICT及びワークシートの活用の効果

研究のねらいを達成するため、学習の流れをワークシートで構成していきながら、それぞれの学習場面においてICTを活用した。

生徒によりICT機器の取り扱いに得手不得手があり、機器活用については生徒の実態に合わせて工夫することは大切な要素となるが、ICTの活用により情報の共有や協議のまとめ・発表などの学習活動を効率良く効果的に行うことができた。

また、学習活動を通して生徒の変容を見取るためにワークシートを作成した(図10)。ワークシートは、生徒が見通しをもって学習を進めていく上でのガイドラインとなるとともに、教員にとっても適格な助言を行う上で重要な情報源(役立つもの)となった。

ウ 今後の課題

本研究では、生徒一人ひとりの考察する力を育成するために、「他者との協議」及び「ICTの活用」に着目して授業の構成を行った。

「他者との協議」(グループワーク)は、様々な意見を見聞きすることで、多角的な視野を養うことをねらいとした。グループワークにおいて生徒間で活発な意見交換が行われている様子が見られ、生徒のワークシートへの記述から視野の広がりや課題解決に向けた考えの深まりが見られた。このことから、グループワークや発表後のまとめが、生徒の考察する力の育成に効果的であることがわかった。このことへの一助として、生徒各自の意見が考察を行うための基準となることから、本研究では、生徒自身が実習等で経験したことなど、既習内容と結びつけて考えるよう助言した。この工夫により各自の意見が充実し、グループワークの充実及び生徒各自の考察が深まったと考えられる。

「ICTの活用」は、情報の共有や協議を効率的かつ効果的に行うことを目的として活用した。アンケートをはじめとして意見の集約をICT上で行ったが、生徒各自の意見の記入はワークシートであったため、協議の結果をICT端末に入力する作業が生じた。予め各自の意見をICT端末に入力することで、より効率的に学習を進めていくことができたのではないかと考えられる。今後、より効率的かつ効果的に学習を進めるためのワークシートとICTのバランスの良い使い方について検討していきたい。

### 睡眠・休養に関するこころとからだのしくみ <ワークシート>

**【事例】**

やすこさん(83歳・女性)は、誰にでも優しく笑顔が素敵なお方です。介護老人福祉施設に入所されてから約1年、毎日穏やかに過ごされています。

—記録—

深夜1時半頃、起床ベッドに座っていた。介護職員Aが声をかけると「なんだか眠れなくて」と訴えがあり、少し話を聞くとその後は就寝した。



.....  
課題：翌日、介護職員の朝の打ち合わせで上記の申し送りがありました。あなたなら、どうしますか。  
.....

Q. やすこさんが「眠れない」のはなぜだろう？

私の考え(不眠の背景として考えられること)	対応(やすこさんに対して私ができること)
.....	.....
.....	.....
.....	.....

グループの考え(不眠の背景として考えられること)	対応(やすこさんに対して私たちができること)
① .....	① .....
② .....	② .....
③ .....	③ .....

○他のグループの考えを参考に自分の考えを深めよう。

<p>最も印象に残ったもの</p> <p>1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 班の ① ・ ② ・ ③ (いずれかに○をつける)</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
---

図10 ワークシート